

禁煙に関する法律の整備により早産や子どもの喘息が減少

禁煙に関する法律を制定することで、とくに子どもの受動喫煙によって引き起こされる病気の発症を減らすことが可能である。本研究では、禁煙に関する法律が周産期および子どもの健康に及ぼす効果について検討した。

1975年から2013年までの医学電子データベース14種を検索した結果、11件の研究が該当し、2,500万人の出生と247,168人の喘息悪化の報告があった。北米の研究5件は地域の法律、欧州の研究6件は国の法律によるものであった。メタ分析の結果、禁煙に関する法律は早産の減少（4件の研究で対象者は1,366,862人；-10.4%； $p=0.016$ ）や喘息による入院の減少（3件の研究で対象は225,753例；-10.1%； $p=0.0001$ ）に関係していた。低体重児の出生には有意な効果はみられなかった（6件の研究で対象者は1,900万人超；-1.7%； $p=0.31$ ）。

このように、禁煙に関する法律を整備することにより、早産や喘息で入院する子どもの数をかなり減らせることが示された。成人の健康への効果も考えると、無煙環境を整えていこうとするWHOの推奨を強く支持する結果となった。

出典：The Lancet. 2014; 383(9928): 1549-1560